

群馬県と栃木県の県境にそびえる日光白根山は、関東以北で最も高い標高2578mの山である。2300mを超す山々に囲まれ、五色沼、弥陀ヶ池などの湖沼がある。高山植物の宝庫でもあり、有名なシラネアオイは、この山に多く自生することから名づけられた、キンポウゲ科シラネアオイ属の日本固有種だ。6月頃に美しい花をつけ、弥陀ヶ池近くの斜面一帯は群生地として知られたが、盗掘やシカによる食害で1990年代に激減してしまった。現在、群馬県のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

群馬県立尾瀬高等学校自然環境科は、1996年の同学科新設以来、授業の一環として日光白根山でシラネアオイ群落の保護・復元活動に取り組んでいる。「日光白根山でシラネアオイの食害が目立ち始めたのは、1988年頃でした。まず栃木県側で92年から防護ネット、電気柵が設置され、保護対策が始まりました。群馬県側の群落はすでに壊滅状態でしたが、93年、群馬県片品村の山野草愛好家から譲り受けた約50株を移植、94年には栃木側の自生地で採った種を蒔き、移植と播種による復元の手ごたえを得ました。その頃、尾瀬高校に自然環境科が

する植物の中から実をつけたシラネアオイの株を見つけ出し、種子を採る作業である。「種を蒔き、移植し、種を採る。3年間を通し、植物の生長と世代交代のサイクルに関わるカリキュラムです。尾瀬高校の生徒は野外実習に慣れています。シラネアオイの活動は大変な作業です。高山の傾斜地を好んで自生する植物なので、土のついた苗を背負って登山し、急斜面で株を植えるのも、種を採るのも一苦労。この活動では、若い高校生の方が役立っていると思います」(柴田教諭)

シラネアオイに対する地元の人々の思いは強く、2000年に片品村の住民が中心となって「シラネアオイを守る会」が発足し、強い熱意で保護活動が進められてきた。しかし最近では会員が高齢化し、高山での移植や採種が難しくなってきたため、尾瀬高校の生徒たちの存在が活動の原動力になっている。

標高2000mまでロープウェイで登り、さらに300mほど高い自生地へ片道2時間以上かけて苗を運び、移植し、種を採る。登山道の整備や清掃にも携わるこの活動は、16年秋、「生物多様性アクション大賞2016」でセブン・イレブン記念財団賞を受賞した。

群馬県立尾瀬高等学校 シラネアオイの 群生地を守る



シラネアオイの種

1年生の実習



苗を育てる圃場。立札に播種した数や日付、作業メンバーの名を記してある



夏の初めに咲くシラネアオイの花



電気柵で囲まれた部分だけ植物が茂っている



シラネアオイを守る会の会員の指導を受け、種を蒔く



2年生の実習

苗を植える場所は弥陀ヶ池に面する急斜面の自生地



苗を背負って登山道に登る



冷たい雨が降る中での移植作業

3年生の実習



アザミなどの葉が密生する中でシラネアオイの果実(右上)を探す



登山道の整備作業

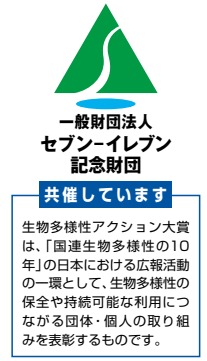
新設されたため、地元の学校として活動に参加することになりました」と、指導にあたる柴田教諭は振り返る。

尾瀬高校の自然環境科は、自然観察や環境調査といった自然体験活動を授業に組み込み、課題を見つける力、解決する力、関わる人々の間を調整するコミュニケーション能力を身につける教育をおこなっている。さまざまな環境学習をこなす中、シラネアオイの保護と復元活動では、種の採取、育苗、移植という一連の作業に3年間を通して携わるプログラムになっている。

まず、自然環境科の1年生は10月中旬、「シラネアオイを守る会」の会員とともに片品村の圃場を整備し、その年の9月に日光白根山で3年生が採取してきたシラネアオイの種子約400粒を圃場に蒔く。圃場で4〜5年かけて育てられ、花をつけるようになったシラネアオイの苗を、弥陀ヶ池近くの自生地まで運んで移植するのは、2年生の役割だ。毎年6月下旬〜7月上旬、地元住民や行政、土地所有者の日本製紙グループなどの人々とともに登山し、移植と開花状況の調査を実施する。1年生が種を蒔き、2年生が移植したシラネアオイから、9月中旬、種を採るのは3年生の担当だ。山に群生

「活動が評価されて、生徒たちは喜んでいきます。生態系のバランスや環境問題の複雑さについて、生徒は実地で学んでいます。山で活動している最中もシカがやってくる。シカが植物を食べる姿は愛らしく、いちがいには憎めない。地元や企業の方々にシラネアオイに対する思いを聞き、レポートにまとめる課題もおこなっています。それぞれ考えが違い、人と自然の多様性や保護活動の意義を知ります。一つの種だけでなく、全体としての多様性をいかに守っていけばよいのか、その重要性に気づいて行動してもらいたいですね」(柴田教諭)

シカの食害は深刻で、現在、弥陀ヶ池周辺は、電気柵で囲まれた場所だけに植物が繁茂し、その外は刈り込まれた芝生のように裸地化している。名山の名を冠した美しい植物の絶滅を防ぎたい――先輩から後輩へ、尾瀬高校の生徒たちは活動を受け継ぎ、シラネアオイの姿を守り続ける。



生物多様性アクション大賞は、「国連生物多様性の10年」の日本における広報活動の一環として、生物多様性の保全や持続可能な利用につながる団体・個人の取り組みを表彰するものです。